

2021年度

三重大学 人文学部法律経済学科

## 特殊講義「協同組合論」



<第3回>

「生協運動の現在と未来

～消費者の暮らしと共に歩む～」

土屋 敏夫／日本生活協同組合連合会 代表理事会長

第3回（10月18日）：受講74名（対面19名、リモート55名）

「消費生活協同組合」のことを「生協」と呼ぶ。生協は株式会社ではなく、協同組合の一つであり、人と人との結びつきによる非営利の協同組織である。協同組合の定義に「協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共同の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。」と示されている。生協は、消費者の願いや要望を実現するために、事業活動を通じて消費者が自発的・自主的に助け合う組織であり、私たちは協同組合としてこのことを忘れてはならない。

生協は、それぞれ時代の組合員の願いに、事業と活動で対応してきた。生協の商品は、組合員の声から生まれ、今では当たり前のように社会で流通するようになってきた。組合員が生協を通して社会を支えてきたと言える。一方で、民間企業等と同じ土俵で競っているのも事実である。

【第3回／講義の要旨】

- ・「ロッチデール公正開拓者組合」には7つの原則があり、その精神は今日の世界の協同組合原則に受け継がれている。
- ・1948年に「消費生活協同組合法」が制定された。生協法の特徴を3つ挙げるとするならば、県域を越えてはいけないこと、組合員以外の利用を規制していること、信用事業ができないことである。
- ・1960年代には有害食品や、公害、メーカー管理価格が問題となり、合成着色料等を除いたバター等のコープ商品の供給や、カラーテレビの値下げ運動等をおこなってきた。1990年代は家族構成や女性の働き方が変化、食品小売競争も激化し生協の経営も危機を迎えた。2000年代は全国の生協組合員が力を合わせ「食品安全基本法」の制定に向けた署名運動を展開し「食品安全基本法」制定の原動力となった。近年は少子高齢化や地域のつながりの希薄化を背景に買い物弱者や高齢者、孤立しがちな子育て家庭への支援が課題となっている。また、災害や所得格差の拡大を背景に被災者支援や生活困窮者への支援の課題となっている。この課題への対応を皆さんと共に考えていきたい。
- ・2030年にむけた日本の生協のビジョンを組合員と一緒に考えてきた。「つながる力で未来をつくる」とし、生協の総合力で事業と活動の領域を着実に拡大していくことにしている。また、2018年に策定した「コープSDGs宣言」では7つの重点を、「2030環境・サステナビリティ政策」では10の行動指針をつくり積極的な取り組みをすすめている。

### 第3回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・今回はSDGsを現代の人々の共通の願いやニーズとして活動しているCOOPの主な理念やどのようなことを考えてその活動をしているのかを学ぶことができた。持続可能な環境を作っていくということで様々なジャンルでのSDGs活動をしていることが分かった。その中でも温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>の排出量を2050年で2019年比90%減らすという試みにとても関心が湧いた。ここから本格的な主要エネルギーの移行が重要視されていることが分かった。
- ・自分たちの生活をより良いものにしたいといった気持ちを寄せあうことで原動力となり、事業が行われ、その恩恵が組合員に還元されるという基本的な協同組合のしくみを様々な事例を通して改めて理解出来た。単に組合員の善意によって事業が行われているのではなく、経済的な利益だけのために活動しているわけでもなく、その点の両立がなされているというお話にも深く納得した。また、行政など他の組織と連携を深めながら事業を進めていくことで、活動の幅が広がるだけでなく、組織との繋がりが強まるという点も重要だと考えた。生協のこれからのあり方について、各人が考えてみることも大切だと思う。
- ・生活協同組合がこれまでに果たしてきた社会的な役割について再確認することができた。そのことから、私が真っ先に感じたことは、生活協同組合は、どこまでも生活する人に寄り添う組織であるということである。我々の生活は、決して一人で成り立っているものではない。誰かの支えがあってこそ成り立つものである。その支えは人それぞれであるが、様々な社会問題に対応してきた生活協同組合は、生活する人のどのようなニーズも満たす組織であると率直に感じた。これからは多様性の時代になると感じている。その中で暮らしも多様化していくのだろうが、生活協同組合のようなぶれずに生活する人を支える組織は、今後より社会的に重要な働きをしていくのだろうと本日の講義を通して確信した。
- ・幅広い分野で生協が活躍していることに改めて驚いた。生協が戦後の食品価格の設定や食品添加物等の食品の安全性について、環境問題等にいち早く取り組んだことが今日の講義で最も印象に残った。私たちが常識であると考えていたことについて生協が率先して積極的に取り組んでいたことに驚いた。また、その原動力に女性の活躍があったことはとてもうれしく思った。今後、生協が行っている高齢者の支援や離島への訪問販売について社会に広がるとより住みやすくなると感じた。また、訪問販売等で社会と密着し高齢者の異常に反応できる組合員の存在も今後の社会で一般的になってほしいと感じた。
- ・成分無調整の牛乳や無漂白小麦粉といった現在では当たり前前に存在していて何も考えることなく手にしているものが実はあたりまえでなかった時があり、これらを当たり前にした背景に生協が関わっていたことに驚いたが、このこと以外にも生協が組合員の願いなどのために先進的に取り組んできた事業や活動を沢山聞いて素晴らしい組織だと改めて感じた。前回の講義でも人とのつながりが大切ということは学んだが、今後の生協を考えるにあたってSDGsを実現するための取り組みは大事で、そのためにも他の組織との連携をしていくことは必要なことであり、改めてつながりがキーワードになっていくと考えた。
- ・普段は大学生協についてあまり考えたことがありませんでしたが、思い返してみると教科書販売や自動車学校など生協を利用する機会が多く私の生活の手助けをしてくれていると実感することができました。特に印象に残った話題は、SDGsについて授業で学習したことがあるため「10の行動指針」に関する話題がとても興味深かったです。物心がついた頃から地球温暖化が懸念されているにもかかわらず、環境問題についてあまり考えていない人が多いと思います。生協の温室効果ガス削減や「コープサステナブル」という取り組みを知り、私たちも環境についてより理解を深め行動していくべきだと感じました。

- ・生協が時代ごとの組合員の願いやニーズに対して対応する形で発展してきたということ、とても丁寧に説明していただいて理解が出来ました。また、生協という組合員の協力で成り立つ組織だからこそ、女性の社会的な地位が低いころから女性の力で組織内の活動の幅が広げられたのかもしれないとも感じました。女性の社会参画の場所としての生協という側面を初めて知った驚きもありました。
- ・生協はNPO法人などのように非営利活動を目的とするのではなく、事業活動を通じて消費者のニーズに応えていく組織であるということで、事業を目的ではなくあくまで消費者のニーズに応えるための手段としているから、様々な事業を展開しているように感じました。講義でも取り上げられていましたが、少子高齢化や新型コロナウイルスなどによる地域のつながりの希薄化を原因とする買い物弱者、高齢者、子育て家庭への支援が今後の課題になると強く感じました。
- ・ロッチデール原則で定められた現金取引の原則が協同組合原則に継承されているのは、消費者である組合員を守るということを再認識しました。協同組合という組織の概念が生まれてから今日まで続いているのは社会問題解決をするという一貫した考えがあるからであると感じました。また、「社会問題解決を目的とした商品のコンセプトが一般企業にも広まって生協の商品が目立たなくなることが幸せだ」というお言葉は営利企業ではない協同組合が存続していくために継承され続けている考えなのではないかと考えました。
- ・生協とスーパーは活動領域がほとんど同じだからこそ、生協だからこそできることを考え、時には生協の定義に立ち返りながら活動していくことが大切だということ学んだ。ただ、生協はスーパーと同じような事業だけでなく、貧困の問題や地域の人々の心地よい居場所づくりなどのスーパーでは対応できないような取り組みもして積極的に社会貢献をしているということを改めて学んだ。また、生協には様々な種類があることは知ってはいたが、実際に学ぶと想像していた以上に種類があると感じるとともに、生協はあらゆる場所にあるため私達の生活に思っている以上に密接に関わっていることも強く感じた。
- ・戦後からの生協のあゆみから多くの事を学びました。商品の安全性や値段の正当性を消費者・組合員自らが集まって豊かな生活を送ることができるように次々と変えてゆくという流れが見られて、とても興味深く感じました。その歴史からは組合員の自発性が強く感じられ、そういった個人が多く集まることによって商品の品質を上げることができること、法律を変えることができることなど、過去の生協は同じ意見を持った個人同士が繋がると、何か大きなことが成し遂げられるという希望も人々に与えたのではないかと思います。
- ・今日の講義を聞き、生協が利益を追求するのではなく、組合員の願いに応えるために存在するという点が、生協とは何かを考えるうえで大切なのではないかと感じました。まず、生協の存在意義についてのお話はとても考えさせられました。生協は消費者や市民の願いや要望を実現することを目的としています。よって、願いや要望を見つけ出して提案することができなければ存在の意義はありません。同じ土俵で戦うAmazonや他のスーパーマーケットのような、利益を追求する企業とは何が違うのかを常に考えているということに生協の本質を見出すことができるのではないかと思います。また、時代が移り変わるにつれて、食品の安全や環境問題も変化していきますが、そのたびにそれを改善する商品を提案してくれただのが生協であったと知れました。問題に配慮した商品が社会にとって当たり前になれば、企業はその基準に合わせて商品を作るほかなくなります。そうなれば最終的には生協の商品は売れなくなってしまうますが、それが嬉しいことで、それが目的であるというのが、組合員の願いに応えるという生協の姿を体現しているように感じられ、企業ではできない生協だからできることなのだと思います。

以上